

ロシナンテスの活動は  
皆さまからのご寄付で支えられています。

## 活動を 知る・伝える

私たちが取り組む課題を知り  
伝えていただくことも  
大きなご支援です

 メールマガジンを読む

 講演映像を見る

 報告書・会報を読む

 写真集を見る

 本を読む

 SNSをチェックする

 イベントに参加する



活動を知る・伝える  
その他の支援  
の詳細はこちら

<https://www.rocinantes.org/support/>

## 寄付で支援

月**1,000円**～

年**3,000円**～

### 継続的に支援

#### ①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。  
[https://www.rocinantes.org/  
support/donate/member/](https://www.rocinantes.org/support/donate/member/)



継続的に支援  
ウェブサイトへ

#### ②銀行口座自動振替

所定の申込用紙を送付しますので  
ロシナンテスまでご連絡ください。

### 今回のみ支援

#### ①クレジットカード

ウェブサイトよりお手続きください。  
[https://www.rocinantes.org/  
support/donate/single/](https://www.rocinantes.org/support/donate/single/)



今回のみ支援  
ウェブサイトへ

#### ②郵便振替

以下の口座をご利用ください。  
郵便振替口座：00940-2-213477  
口座名：認定NPO法人ロシナンテス  
※郵便局（ゆうちょ銀行）の窓口から上記の口座に  
払込みの場合、払込み手数料が免除になります。

#### ③銀行振込

以下の口座にお振込みください。  
銀行名：福岡銀行  
支店名：三萩野支店  
口座番号：普通預金 1733240  
口座名：特定非営利活動法人ロシナンテス

他にも様々な形で  
ご支援方法がございます

## その他の支援

 古本で支援

 物品で支援

 パソコン購入で支援

 携帯を通じて支援

 電気を通じて支援

 ポイントを寄付

 はちみつ購入で支援

 オリジナル  
クレジットカードで支援

 寄付型自動販売機を  
設置する

 自分で寄付を集める

 法人のご寄付

 遺贈・相続財産のご寄付



撮影/上山敦司

2024.4-2025.3

# ANNUAL REPORT

[2024年度] 認定NPO法人ロシナンテス年次報告書

# 病院がない。 医者がいない。 途上国には、 厳しい現実がまだまだ存在します。

ロシナンテスは、  
そのような地域に暮らす人たちに  
医療を届ける活動を続けています。

医療施設のない村々を回って医療を提供し、  
国や地域と協力しながら診療所をつくり、  
給水所の整備や学校建設、栄養改善など包括的な保健事業を整備することで、  
現地の人たちだけで医療を継続できる仕組みづくりをしています。

## VISION

〈ビジョン〉

### 目指す将来像

支援した地域の人たちが、  
「医療」を自分たちのものとし、  
地域の人たちだけで  
医療を継続できる仕組みが  
根付いている世界。

## MISSION

〈ミッション〉

### 使命・役割

病院が無いなどの理由で、  
必要な医療が受けられない地域に、  
医療が届く仕組みを整備することで、  
一人でも多くの命を救う。  
そして、誰もが健やかに  
生きることができる  
環境をつくる。

## VALUE

〈バリュー〉

### 活動理念

目の前で困っている人を助ける  
家族の絆と地域の和を大切にする  
一人はみんなのために、  
みんなは一人のために

写真／内藤順司

## CONTENTS

- 01 ごあいさつ／ビジョン・ミッション
- 03 支援者リレーションズチームのザンビア渡航記
- 05 スーダン事業
- 07 ザンビア事業
- 12 国内活動
- 14 会計報告／団体概要

## ごあいさつ

いつもロシナンテスを応援いただき、本当にありがとうございます。

今年度は、内戦の続くスーダンに遠隔で緊急支援を行ったほか、3度現地を訪問することができました。現在首都機能を担っているポートスーダンは、外務省による危険情報で、当時「レベル3(渡航中止勧告)」とされており、安全に十分配慮した上での渡航となりました。現地ではスーダン保健省や病院関係者と、今後の支援策について協議を重ねることができました。1日も早くスーダンの内戦が終結することを祈っています。

一方、安定した国であるザンビアでは、母子保健事業や結核事業を順調に進めることができています。2棟目のマザーシェルターを建設し、お母さんと赤ちゃんの命を守る取り組みを強化しています。特に小型エコーを用いた妊婦健診では、日本から専門家をお招きし、ザンビアの医療従事者の技術向上に向けて指導を行っていただいています。

また結核事業では、日本のメーカーのAI診断付ポータブルX線装置を導入しています。米国が医療支援を後退させる中、新しい技術をいかに活用していくかについて、ザンビアの方々と意見を交わしながら、ガイドラインの作成にも着手しています。

さらにロシナンテスの本部のある福岡県北九州市では、教育事業を本格化させています。小中学生を対象に、アフリカについて学ぶことで、平和教育や異文化理解、そして異文化を通じて日本文化を再認識する授業を展開しています。

世界が混沌とする中ですが、ロシナンテスは平和を願いながら今後も医療支援を続けてまいります。最後に皆さまに感謝の気持ちを表すとともに、今後とも変わらぬ応援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

ロシナンテス  
代表 川原尚行



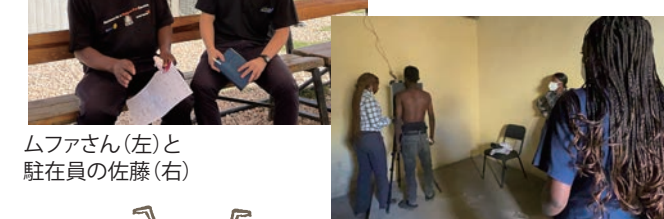
# 支援者リレーションズチーム ザンビア渡航記



## 01 ムワンジュニ診療所を訪問

ムワンジュニ診療所は、結核事業でポータブルX線装置を共有している4施設のひとつです。ここでは結核ボランティアとして活躍するムファさんに会いました。ムファさんは、患者さんに薬を渡したり、次の来訪日を調整したりする役割を担っており、とても忙しくされていました。

病院内の検査室に入ってみると、ちょうど検査が始まるタイミングでした。撮影するとすぐにパソコンにデータが送られ、AIでの診断が始まりました。



ムファさん(左)と駐在員の佐藤(右)



ポータブルX線装置による検査の様子

## 03 マザーシェルターに宿泊



マザーシェルターの蚊帳とベッド

出産を迎える妊婦さんが滞在するマザーシェルターにも行きました。宿泊する部屋には、蚊帳が付けられています。

その日はムワブラ診療所のマザーシェルターで働く、看護師のグエンさんとパトリシアさんが夕食に招いてくれました。ザンビアの主食であるシマ作りに私たちも挑戦しましたが、本当に重労働！だと思いました。しかも混ぜるのですが、どんどんシマの粘度があがり重くなってくるのです。

料理を堪能した後はガールズトークで盛り上がり、歌い、踊り、楽しい夜を過ごしました。当日は妊婦さんがいなかったため、妊婦さんが宿泊する部屋を借りて就寝させていただきました。鍵は、妊婦さんがいつでも来られるように、常に開いているそうです。

普段ご支援者の皆さまとのやり取りを担当する支援者リレーションズチームの職員2名が、2025年3月にザンビアへ出張をしました。ご支援者の皆さまに、現地の様子をより実感を持って伝えたいという思いが高まり、今回の渡航が実現しました。



問診をする診療所スタッフ

## 02 リテタ郡病院を訪問

次に訪れたリテタ郡病院も、結核事業でポータブルX線装置を共有している施設です。

待合エリアでは、患者さんの症状を聞いて、どういった検査が必要かを判断し大まかに振り分けます。結核の疑いがある場合、痰を取って行う喀痰(かくたん)検査を行います。その後、少し離れたX線室で肺の撮影を行います。

リテタ郡病院は、結核診療の他にも、内科、産科、眼科、オペ室などがあり、ひと通りの困りごとを解決してくれる病院です。この日は産前健診の日で、妊婦さんたちもたくさん集まっていました。

眼科の視力検査では「E」の文字の開いている方向を答えるものに加え、「アルファベットを答える」もの、子ども用には「絵柄を答える」ものも貼られていたのが印象的でした。



日本と異なる視力検査表



シマを作る様子

## 04 妊婦調査の報告会に参加

ムワブラ診療所での「妊婦調査報告会」に同行してきました。今回の報告会は、診療所スタッフの皆さんに妊婦調査の分析結果を伝えるために開催されました。妊婦は、15週までの妊娠初期に妊婦健診の受診を開始することが推奨されています。しかしムワブラ診療所では、訪れる妊婦さんの半数以上が妊娠初期に健診を受けることができていません。

妊婦健診受診のタイミングについて下記の仮説が立てられました。

- ヘルスボランティアから保健指導を受けた人は、妊娠初期に健診を受診する割合が高い
- 「早い段階で妊娠を知れると赤子に良くない」という迷信を信じる女性たちは妊婦健診を受けるタイミングが遅くなる
- 学生は妊婦健診を受けるタイミングが遅くなる
- 診療所までの距離が遠い妊婦は妊婦健診を受けるタイミングが遅くなる



報告会の様子

今回の調査は、2024年9月からロシナンテスのザンビア事務所でご協力いただいている助産師の長井さん主導のもと実施されました。

実際に妊婦さんたちに聞き取り調査を行ったところ、妊娠しているか判断がつかない人が一定数いることや、以前は必須だった夫の同伴が不要になったことを理解していない人がいることなど、興味深い結果が出てきました。今回は結果

を伝え、どのように感じたかなどを診療所スタッフと話し合う場となりました。

報告はロシナンテス現地スタッフの二人が担当しました。現地スタッフが現場の人を巻き込み、どうすればより良くなるのかを真剣に話している姿を見ることができました。支援者の皆さんからいただいたご寄付が、ちゃんと現地で生かされていることを切に感じる事ができました。

## column ザンビア料理の作り方を教えてもらいました！

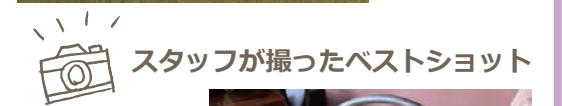
### シマに合う「かぼちゃの葉」のおかず



かぼちゃの葉の筋を手作業で取り、砂や汚れを水で丁寧に洗います。細く千切りにし、お鍋の底一面に広がるように薄っすらと塩を振り、切ったかぼちゃの葉をすべて入れて、火にかけます。そこにみじん切りした玉ねぎ、トマト、油(かなり多め)を追加。しんなりするまでひたすら混ぜたらでき上がり！味付けは塩のみ。シンプルなのに、風味があってとても美味しい1品です。



どこまでも続く青い空と大地に心満たされた1枚



食堂で食べたシマ。入れ物が日本っぽくて驚き！



ロシナンテスの活動

スーダン事業

2023年4月15日、スーダンの首都ハルツームで国軍とRSF（Rapid Support Forces：ダルフルの民兵組織を起源とする準軍事組織）との間で軍事衝突が勃発しました。戦闘は国内各地へと拡大し収束の兆しは見ていません。

ロシナンテスは、2023年度スーダンでの全活動の停止を余儀なくされましたが、2024年度は現地のパートナー団体や関係者の協力を得て、遠隔で2つの事業を進めることができました。

スーダン情勢～国民の約3割が避難

2025年3月に国軍は首都ハルツームをRSFから奪還したと宣言しました。一方RSFは、依然西部ダルフル地方と隣接するコルドファン地方の一部を掌握しており、各地で戦闘による民間人の犠牲も拡大しています。さらに比較的情勢が安定しているとされていた東部の都市ポートスーダンでも、2025年5月初旬にRSFがドローン攻撃を行い、空港や市街地が標的となりました。

2025年3月末時点で、スーダンにおいて避難を余儀なくされた人は、スーダンの全人口の約3割、1,500万人を超えました。そのうち、国内避難民は約1,130万人にのぼり、現在スーダンは世界で最も多くの国内避難民を抱えています。人道危機が深刻化する中、人々の安全確保と早期停戦の実現に向けて、国際社会による迅速かつ強力な働きかけが求められています。

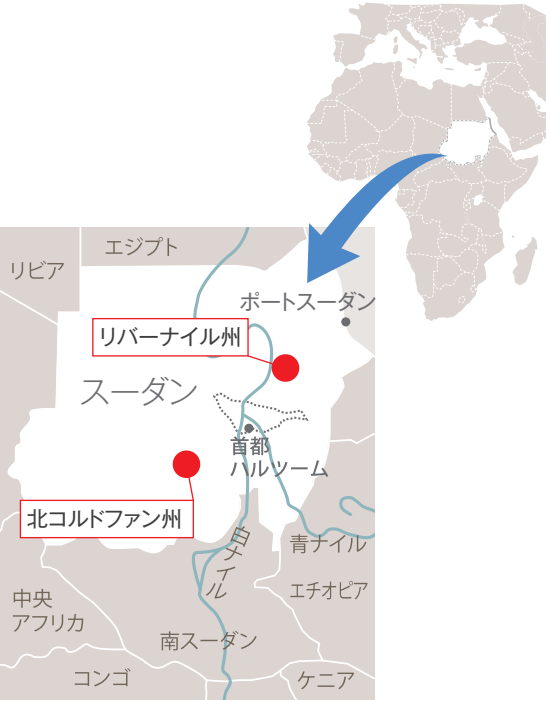


現地スタッフのイブティサムと再会

理事長川原がポートスーダンへ

2024年12月、軍事衝突勃発後に退避して以来初めて、理事長の川原がスーダンに渡航しました。数か月かけてビザを取得し、当時比較的情勢が安定し商用便が運航していたポートスーダンに滞在しました。

ポートスーダンでは、保健省や避難民



キャンプを訪問しました。保健省では、医薬品や医療機器が著しく不足しているとの報告を受けました。キャンプでは、4,000人以上が密集して生活し、健康に生活できるほどの十分な水、食料はなく、電気の供給もありませんでした。診療所もなく、医療が行き届いていない深刻な実態を目の当たりにしました。

現地からの声／

シェリフ・ハサバツラ村 村長 ハサンさん

長年活動を続けていたガダーレフ州シェリフ・ハサバツラ村の村長ハサンさんが、川原に会うため約700kmも離れたポートスーダンまで来てくれました。

「ロシナンテスが作ってくれた給水所は問題なく稼働しています。ただ避難民が村に押し寄せ、水を汲むには200メートルもの長い列に並ぶ必要があります。医療従事者も医薬品も不足しています。ロシナンテスが日本からやってきて私たちのために活動してくれたように、私も地域に貢献していきたいと思っています。」



01 避難所衛生環境改善事業

軍事衝突勃発以降、多くの人々が地方都市に避難しています。そのうちのひとつ、リバーナイル州アトバラで、避難所の衛生環境を改善するプロジェクトを行いました。避難民は学校などの公共施設を避難所として利用しています。しかし多くの施設ではトイレなどの衛生設備が整っておらず、感染症拡大などの健康被害が懸念されています。

2024年4月から5月にかけて、約2,600人が利用する3つの避難所でトイレの改修を行いました。これにより野外排泄をする人が大幅に減ったとの報告を受けています。また施設の給水機能を改善するため、水タンクの改修やパイプ、ポンプの補修、手洗い場の整備も実施しました。



アルワハダ・ボーイズシェルターに設置された水タンク



Before After

避難所衛生環境改善事業

期間／2024年4月～5月  
地域／リバーナイル州アトバラ  
対象／スーダン国内の下記施設の避難民  
エルシロール・アルサフラウィ避難所：約1,080人  
アルワハダ・ガールズシェルター：約990人  
アルワハダ・ボーイズシェルター：約590人

02 ソーラーランタン寄贈



ランタンを受け取った  
オンムカジェック村の人々

パナソニックホールディングス株式会社様より、ソーラーランタン504台をご寄贈いただきました。このランタンは、2024年11月北コルドファン州オンムダム・ハージ・アハメド地域オンムサマーマ区の人々のもとへ届けられました。

ソーラーランタン寄贈

期間／2024年11月 ※寄贈後2年間モニタリング予定  
寄贈先／北コルドファン州オンムダム・ハージ・アハメド地域オンムサマーマ区オンムサマーマ村、ロカッパ村、アブーアライシ村、オンムカジェック村の7つの小中学校の夜間教室、3つの診療所および父子家庭や母子家庭など困難を抱える家庭248世帯  
寄贈元／パナソニックホールディングス株式会社  
現地パートナー機関／SIDO

2023年4月にソーラーランタンが州都オベイドに到着しましたが、その直後に内戦が勃発。オベイドでも激しい戦闘が起こり、事業地への輸送ができなくなりました。奇跡的に1年半もの間、強奪などの被害に遭うことなく無事に保管でき、情勢が落ち着いた時期に無事届けることができました。

ソーラーランタンは、小中学校の夜間教室や診療所、また父子家庭・母子家庭など特に支援を必要とする家庭に配布されました。照明があることで、教育や医療環境の改善、家庭の生活向上などが期待されています。

ポートスーダンの避難民キャンプ。  
1つのテントに2、3家族がひしめきあって生活している



PICK UP! Column

国連と母子保健プロジェクトで協働

2024年5月、UNFPA（国際連合人口基金）スーダンと協働で、スーダン人の医療関係者の能力強化を目的とした5日間のワークショップをケニアで実施しました。日本から経験豊富な産婦人科医、助産師を招き、スーダンの保健省職員や医療関係者を対象に知見を伝えました。また、スーダンの保健省が作成した緊急産科新生児ケアの研修ガイドラインの評価・検討を行い、改定版を作成しました。



## ロシナンテスの活動

## ザンビア事業



撮影/上山敦司



ザンビアの村落部では、診療所へ行くのに歩いて  
何時間もかかる村も多く、出産には様々な危険が伴います。  
事業を通して、安心して出産できる環境を整えます。

## 01 マザーシェルター建設事業

出産をサポートするマザーシェルターを  
新たな地域で建設

中央州チサンバ郡では、入院施設のある診療所が少いため、多くの妊婦さんは出産予定日に診療所に向かいます。診療所が遠いことや、陣痛開始後の移動が難しいことから、自宅出産を選ばざるを得ない人が多くいます。

この状況を改善するため、ロシナンテスは2021年に中央州チサンバ郡ムワブラ地域にマザーシェルターを建設しました。マザーシェルターは、妊婦さんが出産予定日前から滞在し出産に備えられる施設です。建設後、施設分娩率の改善など地域に良い影響がみられたため、チサンバ郡内の新たな地域で2棟目の建設を行うことになりました。

2024年7月、チコンコメニ地域に、2棟目のマザーシェルターが完成しました。この地域では、出産待機場所がないことなどが原因で妊婦さんの約6割が診療所での出産を避けていました。診療所にマザーシェルターを併設することで、陣痛前から滞在し診療所での出産に備えられ、万が一の際にも適切な処置を受けられる可能性が高まります。

マザーシェルターには、産前健診から出産、産後の健診までを安心して受けられるよう、設備を整えました。



## マザーシェルターの主な設備

- ・出産待機室(宿泊できる部屋)
- ・産後経過観察室
- ・分娩室
- ・職員の当直室
- ・付添家族の宿泊室
- ・シャワー・トイレ
- ・簡易調理場

新しい分娩室ではプライバシーを守るためにパーテーションを設置



Before

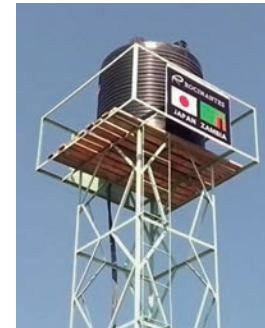


After

## 産前健診に小型エコーを導入

産前健診で妊婦さんと赤ちゃんの正確な診断ができるよう、小型エコーを1台導入しました。これにより逆子や危険な兆候を把握することができるようになり、万が一の場合も上位の病院を紹介するなどの適切な対応をとることができます。今後、新生児死亡率や妊産婦死亡率の低減につながる指標として、妊産婦の健診率やエコー受診率を重要視していきます。

掘削した井戸の水が汲み上げられるタンク



診療所スタッフへのエコー研修の様子

## 残る課題、今後期待されること

診療所にあった井戸が汚染されていることがわかったため、新たな井戸も掘削しました。一方、電気の供給は、行政の意思決定や対応遅延などの問題があり、建設完了までに実現することができませんでした。行政と電力会社との交渉を続けながら、暫定的措置としてジェネレーターを提供し、診療所の夜間の電力供給をサポートしています。

今後、このマザーシェルターが活用されることにより、以下の効果を見込んでいます。

- ・自宅出産、路上出産の減少
- ・産前、産後健診の受診率の増加
- ・施設出産数の増加

## 現地からの声 /

チコンコメニ診療所の助産師  
メーブルさん

「この地域が良くなることを願い、支援してくれたロシナンテスに感謝しています。以前この診療所は妊婦の受け入れができないため、多くの母親は自宅でお産していました。今は出産する場所を確保でき、マザーシェルターに来た人を受け入れることができます。とてもうれしいです。」



地域の住民や子どもたちが歌や踊りで祝福



オープニングセレモニーにはたくさんの地域住民の皆さんが集まりました

## PICK UP! Column

より質の高い母子保健活動を目指して  
専門家によるサポートを強化

ザンビアにおける母子保健事業の質をより高めるため、2024年度は医師や看護師、助産師などの専門家の受け入れを強化しました。専門家の皆さまには、現場での技術指導に加え、データ分析などのプロジェクト運営のサポート、診療所運営についての改善活動の推進など、多岐にわたる役割を担っていただきました。今後も専門家の方々に定期的にザンビアに足を運んでいただき、現地の医療課題の解決に向けて、継続的に協働できる体制を整えていきたいと考えています。



ザンビアに4か月滞在した助産師の長井菜摘さん

## 02 結核事業

ザンビアの村落部にポータブルX線装置を導入  
結核を早期発見し、治療につなげます

### 結核患者の多い国 ザンビア

ザンビアでは、年間5.9万人もの人々が結核に感染しており、主要な死亡原因のひとつになっています。そのため、結核対策は国の重要政策に位置付けられています。結核の感染拡大を防ぎ、治療を成功させるには早期の発見が鍵になります。結核の診断には痰を用いた喀痰（かくたん）検査や胸部X線検査が必要ですが、中央州チサンバ郡とチボンボ郡ではX線装置が不足しており、診断の遅れにつながっています。



リテタ郡病院の放射線技師、看護師さんとロシナンテススタッフ



ポータブルX線装置による検査の様子

### 1年間の試験導入で効果を確認

この状況を改善するため、ロシナンテスは富士フイルム株式会社の協力のもと、2023年5月よりポータブルX線装置1台を、郡内の4つの医療施設で共有する試験事業を開始しました。装置を施設間で移動させることで、地域住民が近くの医療機関でX線検査を受けられるようにし、結核の早期診断につなげることを目指しています。

1年間の試験導入の結果、従来の検査では見逃されていた結核患者を多く発見できるようになったことが、データから明らかになりました。以前はX線検査を受けるために都市部まで行く必要がありましたが、近くで受けられるようになったことで、住民の移動にかかる経済的負担も軽減されました。



合同で行われたX線画像の読影研修

### 現地人材の再研修

機器を活用するためには、検査にかかわる人材の能力向上も欠かせません。ロシナンテスは、診療所スタッフを対象に、X線画像の読影に関する3日間の合同研修を実施しました。合同で行ったことで施設間の交流が深まり、読影技術や診断精度について活発な意見交換が行われました。また放射線技師を対象に、装置の使用方法に関する再研修も実施しました。

### 多くの結核患者を発見、完治した患者も

2024年度を通して、4施設合計で5,414件のX線検査を実施しました（骨折、肺炎など他の疾患も含む）。結核と診断された患者の約6割がX線検査で診断されており、これまで見逃されていた結核患者を多く発見し治療につなげることができています。

- 発見した結核患者数  
結核疑いで4,062人診断したうち、**367人(9.03%)**
- X線検査で発見された結核患者数  
**367人の結核患者のうち、217人(59.12%)**
- 治療成功数 ※2024年4月から7月の間で治療開始した患者  
**117人中96人(82.05%)が治療成功**
- 削減された患者の移動費負担  
推定約**548万円**の患者の移動費を削減  
(移動による他の乗客への感染リスクも低減)

### 今後の事業展開に向けて

現在病院では常にX線検査が実施できる一方で、診療所では月2～4回に限られており、それ以外の日は装置が保管されたままとなっています。郡保健局と連携しながら、診療所での検査頻度の増加や実施先の拡大について協議を進めています。2025年度には診療所での検査回数を増やし、より多くの患者が必要な検査を受けられる体制を整える予定です。

#### 結核事業

期間／2024年3月～2025年3月

地域／中央州チサンバ郡のリテタ郡病院・チサンバ診療所、同州チボンボ郡のムワチソボラ総合病院・ムワンジュニ診療所  
対象／対象医療施設の職員150人、同地域の住民約58万人  
協力企業／富士フイルム株式会社

### PICK UP! Column

#### ロシナンテス初の学会発表 グローバルヘルス合同大会に参加

2024年11月16日から17日に沖縄県で開催された「2024年グローバルヘルス合同大会」に参加しました。当日は、ザンビアで進めている結核事業について発表し、保健医療の専門家と意見交換を行いました。

2022年にザンビアの事業地を訪れた喜多悦子先生が座長を務める「国際保健医療協力と新技術の展開」というシンポジウムで、川原が登壇しました。新しい技術を国際保健にどう活かしていくかについて、様々な意見が交わされました。また「ザンビア中央州におけるポータブルX線装置導入による結核早期発見と医療アクセスの改善」と題して、ポスター発表も行いました。ロシナンテスの事業を学会で発表することは初めてでしたが、多くの方に活動を知っていただく貴重な機会となりました。



呼吸器科医の小川恵医師に3か月滞在いただき、診断プロセスや患者管理について助言をいただきました



#### ／現地からの声／

##### リテタ郡病院の 看護師ムタレさん

「私たちの病院では、かつて古いX線装置を使用していたが、故障して動かなくなりました。稼働していた頃でも、画像が不明瞭で診断が難しいことがあり、その結果治療の開始が遅れ、患者さんの命が危険にさらされることもありました。ロシナンテスのおかげで、医療へのアクセスが大幅に改善され、多くの命を救うことができています。」



##### ポータブルX線装置で 検査を受けた患者さん

「近くで検査を受けられるようになってとてもうれしいです。ここにポータブルX線装置が来るまでは特にお金の面が厳しかったです。これまでは、州都のカブエにある病院まで行かないと検査を受けられず、私は交通費の問題で検査を受けられませんでした。近くの診療所で検査から治療まですべてが済むのでとても簡単になりました。」



シンポジウムに登壇する理事長 川原

## 03 血圧計・体組成計寄贈

エレコム株式会社様より、血圧計50台と体組成計18台を寄贈いただきました。これらは、妊産婦や患者の健康管理のために、ザンビアの医療施設に導入されました。

妊娠中の健康管理では、適切な体重増加の確認や、妊娠高血圧症候群などのハイリスクなケースを把握するために、血圧・体重・BMIの定期的な測定が不可欠です。また、結核治療においても、血圧低下や食欲不振による体重の減少が重要な診断指標となるほか、投薬量の調整にも正確な測定が必要です。しかし村落部の診療所では、資金不足によりこれらの機器の設置ができていません。また病院においても、十分な台数がなく、診断精度の低下や待ち時間の増加の問題が発生していました。

そこで、ロシナンテスは事業地のあるチサンバ郡、チボンボ郡の保健局と協議し、必要な施設を選定して寄贈を実施しました。これにより、各医療施設で正確な測定が可能になり、診断までの時間短縮やより適切な治療が期待されています。

### 血圧計・体組成計寄贈

期間／2025年2月～3月

寄贈先／中央州チサンバ郡、チボンボ郡の診療所35施設

寄贈元／エレコム株式会社

血圧計の使用感を確認



体組成計で体重を測る妊婦さんたち

## 04 N95マスク寄贈

株式会社モレーンコーポレーション様より、N95マスク960枚をご寄贈いただきました。これらは、ザンビアの医療施設において、結核の感染拡大を防ぐために活用されます。

ロシナンテスは、ザンビアで結核患者の早期発見を目指す事業を行っており、検査を受けに来る結核疑いの患者が増加しています。しかし、待合室では他の患者と同じ空間で待機することが多く、感染拡大の恐れが指摘されています。一部の施設では換気が不十分で、停電時には扇風機も使用できず、さらにリスクが高まります。加えて、結核が疑われる段階では診断が確定していないため、多くの患者がマスクを着用せずに来院します。村落部ではマスクを購入できる場所が少なく、医療施設でマスクを受け取り使用するのが一般的です。

こうした背景から、郡保健局と医療施設が主導して患者待合室の環境改善を進めることになりました。改善されるまでの間、寄贈いただいたN95マスクを活用し、感染拡大の防止対策を行っていきます。中央州にあるリテタ郡病院の結核診療所で、準医師、看護師、結核ボランティアを通して、施設に来院する結核疑い患者や感染リスクが特に高い小児、高齢者、妊婦さんを中心に配布する予定です。



簡単にサイズを調整でき、使いやすい



### N95マスク寄贈

期間／2025年3月

寄贈先／中央州リテタ郡病院

寄贈元／株式会社モレーンコーポレーション

## ロシナンテスの活動

## 国内での活動

### 01 アフリカから学ぶ国際教育プロジェクト

北九州市内の公立小学校17校、公立中学校1校で出前授業を行い、のべ1,600人以上の子どもたちに学びの場を提供することができました。このプロジェクトは、アフリカでの滞在経験を持つ講師が、アフリカの生活や文化、NPOの活動を題材に授業を行うもので、子どもたちにグローバルな視野を育んでもらうことを目的としています。北九州市の「ふるさと納税を活用した協働のまちづくり推進事業」に採択され、企業版ふるさと納税による補助金で実施されています。今後もロシナンテスは、子どもたちが世界を身近に感じられるよう学習機会を提供していきます。



本プロジェクトの報告会で、理事長川原が小学生からの質問に答える様子

### 02 能登半島地震・豪雨災害支援

ロシナンテスでは、2024年1月に発生した能登半島地震の被災者支援に協力すべく、珠州市で活動をしている認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパン（空飛ぶ捜索医療団）に車両2台を貸与しています。また、2024年9月下旬、復興途上にあった珠州市で豪雨による洪水が発生したことを受け、医療支援活動を行うHuMA（特定非営利活動法人災害人道医療支援会）と共同で、市内の高齢者介護施設で支援活動を行いました。ロシナンテスは、ボランティア募集などの後方支援を担い、10月に1名の看護師ボランティアの方に現地での活動に参加いただきました。

## PICK UP! Column

### スーダン軍事衝突勃発から1年 情報発信を強化

スーダンで軍事衝突が勃発してから、2024年4月で1年が経過しました。多くの避難民が発生しているにもかかわらず、国際社会の関心は低下しています。この状況を受け、ロシナンテスはスーダン情勢に関する広報活動を強化しました。2024年4月9日に報道機関向け報告会を開催したほか、スーダンで活動するNGOと共同で、停戦と人道支援を求める声明を発表しました。



また5月にはスーダン人のゼインさんを招き、福岡・大阪・東京・北海道で報告会を開催しました。避難生活を送るゼインさんの体験を直接聞くことで、多くの方にスーダンの現状を知っていただく機会となりました。

## 2024年度 数字で見る国内活動

月1,000円からの  
継続支援で応援いただく  
「チーム・ロシナンテス」の皆さま

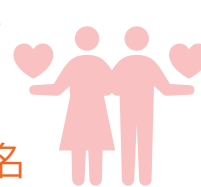
5,299名



皆さまの応援に心より感謝申し上げます。

都度の寄付による  
ご支援者

968名



法人によるご支援

127社・団体

5万円以上のご寄付、あるいはサービスなど協力のあった法人



メディア掲載数

60件



講演数

26件



広報イベント開催数

16件



古本・物品寄付数

192件



ご支援いただいた法人の皆さま

※五十音順・敬称略

【支援企業】

旭建材株式会社  
株式会社石田組  
株式会社ウエスト  
LICグローバル株式会社  
社会保険労務士法人大竹事務所  
おそうじの松田  
花王株式会社 花王ハートポケット倶楽部  
神尾公認会計士事務所  
医療法人社団寿会永山医院  
西東みはる税理士事務所  
株式会社産業保健コンサルティングアルク  
JBNインターナショナル株式会社  
弁護士法人清水法律事務所  
昭立産業株式会社  
シリコンテクノロジー株式会社  
白石共立病院 社会貢献室  
新熊本産業株式会社  
株式会社鈴木工務所  
一般社団法人仙台市医師会  
タステック・レントリース株式会社  
医療法人東耀会  
トップ保険サービス株式会社  
医療法人社団撫子高松メディカルクリニック  
日本臨床麻酔学会第44回大会  
浜松町眼科  
株式会社ハル犬猫病院  
株式会社ブランドリーネ  
医療法人平和の森  
株式会社北海道通信社  
公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団  
一般財団法人松本記念財団  
医療法人みやざき腎臓内科・リハビリクリニック  
有限会社モックプロダクション  
YASKAWA未来クラブ

医療法人山崎会サンピエール病院  
医療法人ライヴズ  
臨済宗妙心寺派  
有限会社ワークス  
※10万円以上のご支援をいただいている  
企業、団体の皆さまを掲載しております。

【企業版ふるさと納税】

長瀬産業株式会社

【キャンペーン協賛】

株式会社夢ふおと

【サービス協力等】

インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社  
株式会社エボスカード  
エレコム株式会社  
OSUSO  
gooddo株式会社  
サンビット株式会社  
特定非営利活動法人寄付型自動販売機普及協会  
株式会社STYZ  
株式会社セールスフォース・ジャパン  
ソフトバンク株式会社  
つなぐ書店  
TMコミュニケーションサービス株式会社(お宝エイド)  
ナッジ株式会社  
ハチドリ電力  
株式会社PR TIMES  
ピープルポート株式会社  
株式会社ふくおかフィナンシャルグループ  
Boina Malana  
Yahoo!ネット募金  
READYFOR株式会社

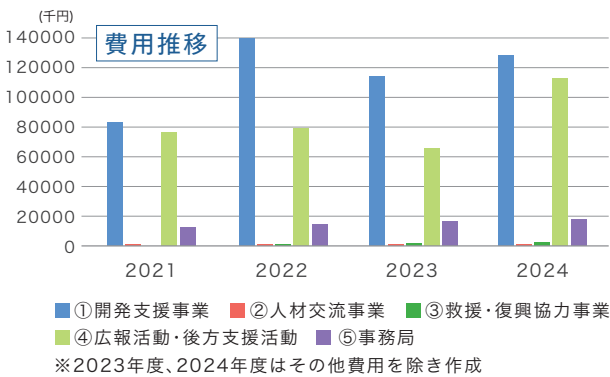
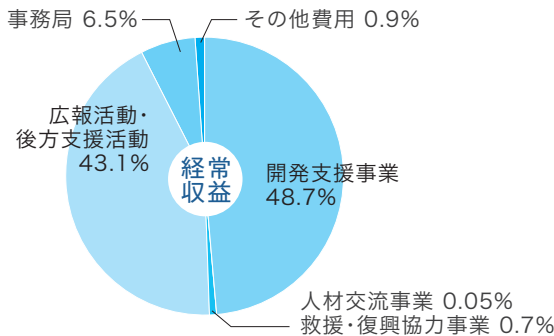
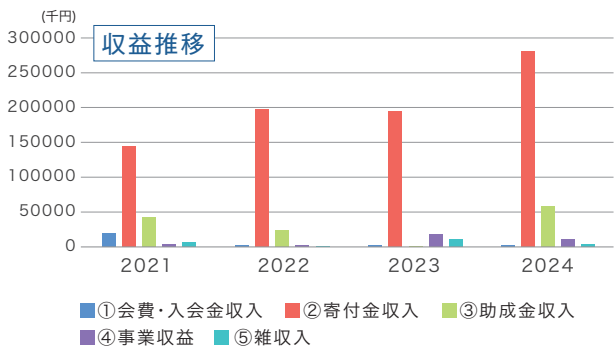
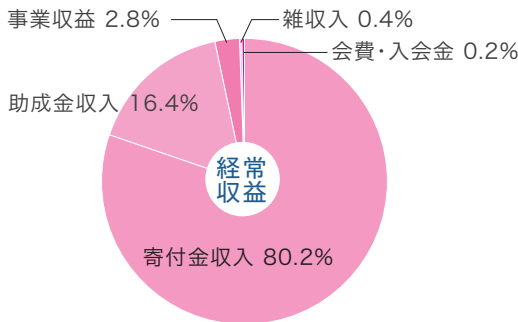
会計報告

活動計算書

(単位:円)

|                      |                 |             |
|----------------------|-----------------|-------------|
| 経常収益                 | ①会費・入会金収入       | 647,000     |
|                      | ②寄付金収入          | 282,208,589 |
|                      | ③助成金収入          | 57,637,055  |
|                      | ④事業収益           | 9,870,834   |
|                      | ⑤雑収入            | 1,319,644   |
|                      | 経常収益計(A)        | 351,683,122 |
| 経常費用                 | ①生活改善事業(開発支援事業) | 127,056,266 |
|                      | ②交流推進事業(人材交流事業) | 125,332     |
|                      | ③救援・復興協力事業      | 1,867,066   |
|                      | ③広報活動・後方支援活動    | 112,484,446 |
|                      | ④事務局            | 17,056,069  |
|                      | その他費用           | 2,421,000 ※ |
|                      | 経常費用計(B)        | 261,010,179 |
| 為替差損(C)              |                 | 13,065,270  |
| 経常外費用(D)             |                 | 1,506,583   |
| 法人税(E)               |                 | 81,000      |
| 当期正味財産増減額(A-B-C-D-E) |                 | 76,020,090  |
| 前期繰越正味財産額            |                 | 243,246,651 |
| 次期繰越正味財産額            |                 | 319,266,741 |

※スーダンでの事業実施が困難なことから、2022年度に受領した民間受取助成金を当期に返納したもの



ご支援いただいた法人の声

世界中に医療と水と笑顔を届ける活動を

昭立産業株式会社 代表取締役 渡邊 大輔様

弊社は1974年に創業した建設資材販売施工会社です。主に住宅・商業施設・物流倉庫などでアンカー工事や外壁工事を通じて、その時代の建造物を未来に残す役割の一部を担っております。

ロシナンテス様については、代表の川原様の活動をテレビで拝見したことがきっかけ

で知りました。アフリカという地域で医療を届ける活動に感銘を受け、微力ながら寄付という形で協力させていただいております。

これからもスーダン・ザンビアのみならず、世界中に医療と水と笑顔を届ける活動を頑張っていきたいと心から思っております。



組織概要

|       |                                                 |
|-------|-------------------------------------------------|
| 名称    | 特定非営利活動法人ロシナンテス                                 |
| 略称    | 認定NPO法人ロシナンテス                                   |
| 設立    | 2005年10月(NPO法人設立 2006年5月)                       |
| 所在地   | 〒802-0082 福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号<br>北九州市立商工貿易会館7階 |
| スタッフ数 | 日本 7人、スーダン 5人、ザンビア 10人                          |

役員一覧

|      |       |    |       |
|------|-------|----|-------|
| 理事長  | 川原 尚行 | 理事 | 武藤 義博 |
| 副理事長 | 竹中 賢治 | 理事 | 海原 六郎 |
|      |       | 理事 | 星野賢一郎 |
| 理事   | 片山 憲一 | 監事 | 樋上弥寿子 |
| 理事   | 高山 義浩 | 監事 | 神尾 康生 |